

Ⅲ 自由意見Q & A集

- このQ & A集について
市民意識調査に回答のあった1,764人から寄せられた約812件の自由意見のなかから、よくあるご意見、ご質問などを抜粋してQ & Aにしました。
- 自由意見への回答について
このアンケート調査は無記名で、回答者が特定できませんので、寄せられた自由意見について、個別に回答はしていません。
- 自由意見の取り扱いについて
寄せられた自由意見は、各担当課において今後の取り組みの参考といたします。
- 自由意見の整理について
自由意見は、久留米市新総合計画の都市づくりの目標別に整理しています。

【目標：誇りがもてる美しい都市久留米】

●快適な都市基盤・生活基盤の構築

**Q：単身の高齢者が安心して生活できる市営の賃貸住宅を整備して供給してもらいたいです。
(60歳代、男性)**

A：単身高齢者が安心して生活できる市営の賃貸住宅として、久留米市では現在、市営住宅を整備・供給しております。単身高齢者に向けた市営住宅の整備については、新築住宅を一定の割合で単身者向け住戸として建設するとともに、既存住宅についても住戸内の段差解消などのバリアフリー改善をおこなっております。

また、供給についても、入居者募集において「世帯向け」募集枠と併せ、単身者の応募に限った「単身者向け」募集枠を設定し、単身高齢者への積極的な供給に努めております。

今後も、単身高齢者世帯の増加が見込まれる社会情勢へ対応するために、計画的な市営住宅整備及び供給を進めてまいりますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いたします。

【回答課：住宅政策課】

●快適な都市基盤・生活基盤の構築

**Q：子どもが安心して歩くことができるような、歩道を作ってほしいと思います。子どもが安心して歩けることは高齢者にとっても安心して歩けるとおもいます。
(20歳代、女性)**

A：ご意見いただきました歩道の整備に関しまして、歩行者の安全を確保する上では、危険な車道部と分離ができる歩道整備が望ましいと考えておりますが、用地確保が難しい箇所が多く、なかなか進

んでいない状況にあります。そうした中で、子どもが安心して歩けるよう、通学路の安全対策として、各小学校区で抽出された危険箇所について、学校・警察・道路管理者等により合同点検を行い、路面標示による注意喚起やカラー舗装、防護柵の設置などを実施しています。

今後もこうした取り組みについて、地域の皆様や警察等の関係機関と連携を図りながら子どもや高齢者が安心して通行できる道路整備を進めてまいります。

【回答課：道路整備課】

●集い、楽しむ空間づくり

Q：他市に比べて公園内のトイレが汚いので、利用できるようにしてほしいです。(60歳代、女性)

A：久留米市の公園内のトイレは、公園の規模や利用頻度に応じて週1回～数回、便器・床・壁等の清掃を行っております。また、特に利用者数や利用頻度の高い公園については、毎日清掃を行っております。しかし、雨天時やイベント時の来園者増加等、清掃後の利用状況により次回清掃までの間に汚れている場合もあり、利用者の皆様にはご不便をおかけしております。

今後も、より清潔で使いやすいトイレになるよう、更なる維持管理の徹底を図っていきたく考えております。

【回答課：公園土木管理事務所】



●集い、楽しむ空間づくり

Q：小さい子どもがいるので、子ども達が楽しく遊べる公園の整備をしてもらいたいです。他の自治体には大きい公園があり、家族連れで1日遊んで楽しく過ごすことができます。(40歳代、男性)

A：久留米市では、近隣の方が利用する小規模な公園や、市内外の多くの方が利用する大規模な公園の整備を計画的に進めております。現在、市内には、水沼の里2000年記念の森公園、浦山公園、津福公園などの大規模な公園があります。各公園は、遊具や広い芝生広場など様々な特徴があり一日ゆっくり過ごすこともできます。

今後も、市民の皆様が楽しく遊べる公園づくりに努めてまいります。

【回答課：公園緑化推進課】

●自転車が似合うまちづくり

Q：子どもから大人まで楽しめるサイクリングロードの整備をしてほしい。週1回程度で走っていますが、アスファルトのひび割れなど路面状況が悪いです。広報くめで「自転車が似合うまち」にしたいといった内容が書かれていましたが、サイクリングロードは全く改善されていないので、早急に対応をお願いします。(40歳代、男性)

A：久留米市は「自転車が似合うまち」に向け、久留米市自転車利用促進計画に基づいて自転車に関する取り組みを進めております。この計画の中で自転車の通行空間の整備を優先的に取り組む路線を自転車ネットワークと定め、関係者と協力しながら多様な観点を踏まえて順次道路整備を進めております。

ご意見にあるサイクリングロードにつきましては、他の道路等と合わせて、日常の維持管理の中で路面状況が悪化している箇所を補修に取り組んでいるところです。

今後につきましても、走りやすい道路環境を目指し、適切な道路の整備及び維持管理に努めてまいりますので、ご理解とご協力のほど、よろしく願いいたします。

【回答課：交通政策課】

【目標：市民一人ひとりが輝く都市久留米】

●防災力の強化

Q：熊本地震の際の対応についてですが、福岡市と比較して対応が遅く漠然とし過ぎている印象を受けました。災害が起こった際に、久留米市には何も期待できないという感想をもったので、他市町村等の取り組みを参考に、改善されることを望んでいます。(30歳代、女性)

A：久留米市では、熊本地震の発生後、市内における被災状況の調査や避難所を開設するとともに、被災地に対し、いち早く救援物資の搬送や職員の派遣など、支援に取り組んできたところです。

また、近年各地で発生している大規模な自然災害に対応するため、現在多方面から情報収集を行い、地域防災計画における取り組みの視点や項目について見直しを行っているところです。今後の迅速かつ的確な対応に向け、地域防災計画の充実・強化を図り、地域住民や関係機関などと協働しながら地域防災力の向上に努めて参ります。

【回答課：防災対策課】

●生活安全対策の推進

Q：現在県外で仕事をしていますが、久留米は治安が悪いとよく耳にします。実際に住んでいるとそうは思いませんが、外からはそのように見えるのかもしれない。実際、自転車等の窃盗等が多いため、久留米の印象が良くなるような対策をお願いしたいです。(20歳代、男性)

A：久留米市では安全安心のまちづくり「セーフコミュニティ」の国際認証を平成25年に取得し、市民の皆様や警察をはじめとする関係団体と連携・協力しながら、様々な分野で多くの取り組みを進めているところです。

防犯分野の取り組みとしまして、被害が比較的多い駅周辺などで、ツーロック推進のキャンペーンの実施や、中学校新入生への啓発チラシ配布など、自転車盗難防止の取り組みを行っているところです。その他、青パトでの合同防犯パトロールや街頭防犯カメラの設置など様々な防犯対策に取り組んでおり、犯罪認知件数(自転車盗の件数)は4年前と比べ約43%減少するなど、減少傾向で推移しているところです。

今後も、警察や関係機関等と連携し、安全で安心して暮らせるまちづくりを進めてまいりますので、ご理解・ご協力のほどよろしく願いいたします。

【回答課：安全安心推進課】

●創造的な文化芸術活動の推進

Q：新しくできた久留米シティプラザが、久留米の文化芸術、観光・コンベンションなどの中心となり、沢山の催しがあることを楽しみにしていません。(40歳代、女性)

A：久留米シティプラザは市民会館に替わる文化施設としての機能、医療や企業の発展・交流を促進するためのコンベンション施設としての機能、そして中心市街地活性化の役割を担う中核的施設としての機能を併せ持った複合施設として整備しました。開館初年度は1年間を通したシリーズとしてオープニングシリーズを企画し、話題性のある催しや、市民の企画で行う事業などを実施し、市民のみなさまよりご好評をいただいております。また、開館後既に19件の学会などのコンベンションを開催いただいているところです。

今後とも引き続き、魅力的な催しを行っていきと共に、積極的なコンベンション誘致を図り、久留米の魅力発信に努めていきますので、ご支援いただきますようお願いいたします。

【回答課：久留米シティプラザ総務課】

●創造的な文化芸術活動の推進

Q：市の中心となる久留米シティプラザがオープンしましたが、店舗のお客が少ないのが気になります。早い時期にあり方を見直さないと、税金の無駄遣いになってしまう気がします。皆が行きたくなるイベント等を数多く行い、久留米の魅力発信してほしいです。(50歳代、女性)

A：久留米シティプラザは、文化芸術の振興、広域交流の促進、六ツ門地区の商業、賑わい交流の4つの拠点機能を合わせ持った複合施設として整備しました。

久留米シティプラザの商業テナントは、六ツ門8番街地区市街地再開発組合により整備され、その管理はまちづくり会社が行っているところです。

一方、シティプラザでは開館初年度は、久留米シティプラザオープニングシリーズとして話題性のある催しや市民の企画で行う事業などを実施し、開館から11月末現在での来場者数は37万人の方に来場していただいております。

今後とも、魅力ある催しやイベント等を行い、街なかの賑わいづくり、久留米市の魅力の発信に努めていきたいと考えています。

【回答課：久留米シティプラザ総務課】

●誰もが楽しめるスポーツ環境の充実

Q：子ども達のスポーツに関する環境が整っていない、特にサッカーのグラウンド数が全く足りていません。このことが筑後地区のサッカー弱体の原因の一つになっており、早急な検討をお願いします。(20歳代、男性)

A：久留米市では、「活力あふれる市民スポーツの振興と豊かなスポーツライフの創造・地域づくり」の基本理念に基づき、市民の体力・年齢・目的に応じてスポーツに親しめるようスポーツ施設の整備に努めております。

市内には、サッカーの試合ができるグラウンドが15箇所あり、内訳は、土のグラウンドが10箇所、陸上競技場や河川敷などの芝のグラウンドが5箇所でございます。

これらのグラウンドに加えまして、小中学校のグラウンドなどを活用し、市民の皆様が日々の練習や各種大会などの活動をされるなど、市民のスポーツ振興が図られております。

サッカーグラウンドにつきましては、引き続き、市民の皆様のニーズや施設の状況に応じて効率的・計画的な整備を検討してまいります。

【回答課：体育スポーツ課】

●地域づくり活動の活性化

Q：各自治会がどのような活動をしているのか、また、久留米に自治会がいくつあるのか、教えてほしいです。(20歳代、男性)

A：久留米市には、約670の自治会があり、自治会・町内会・区などの名称で地域活動が行われています。

自治会は、そこに住む人々が互いに助け合い、心豊かで住み良い地域社会を創っていくために、住民相互の「親睦連携」や「環境整備」、「防犯・防災」などを目的として活動を行う地縁による団体です。

自治会は、自分たちのまちは自分たちでつくるという自主・自立の精神で、地域の特性や自治会の規模に応じた活動を行っています。一般的に以下のような活動を行いながら生活環境の維持改善・充実、地域の課題解決や活性化に取り組んでおられます。

- ①運動会や祭りなどの親睦活動
- ②安全パトロールなどの青少年の健全育成、高齢者の見守り活動など相互扶助活動
- ③防犯灯の設置・維持管理、防犯パトロール、自主防災組織の運営などの生活防衛的活動
- ④河川、道路及び地域で管理している土地の清掃、ごみステーションの管理、ごみ分別推進などの環境美化活動

- ⑤行政情報の伝達、公共事業の協力などの行政補完的な活動
- ⑥各種団体や住民相互の意見調整
- ⑦各種サークルの育成、各種講座・勉強会の手配など

また、久留米市では各小学校区を基本単位に校区コミュニティ組織が設置され、校区内の一つひとつの自治会や各種住民団体などの構成団体と総合的な連携により、地域のまちづくり活動が組織的かつ継続的に行われております。

久留米市では、住民、自治会、校区コミュニティ組織及び行政がお互いの立場や特徴を理解し、尊重しあいながら対等の立場で、それぞれの役割と責任において、独自に、あるいは連携・協力して地域の課題解決や目標達成に取り組む「協働によるまちづくり」を進めており、市民の皆様の積極的な地域活動への参加・参画をお願いしております。

【回答課：地域コミュニティ課】

●安心して産み、育てられる環境づくり

Q：幼稚園や保育園の空きがなく、とても困りました。もっと枠を増やして、働きながら子育てができる環境にしてほしいです。高齢者だけでなく、若い世代の人達のことを考えた行政にしないと、久留米市は衰退すると思います。(30 歳代、男性)

A：保育所等の利用につきましては、利用希望者の増加や保育士の不足などにより、特に市中心部におきまして待機児童が発生しており、久留米市では待機児童解消のために保育所や認定こども園などの施設整備を計画的に行っておりますが、利用希望に見合う保育士の確保が困難な状況にあります。

久留米市といたしましては、今後も保育人材の確保に向けた取り組みを進め、保育を必要とする家庭が希望に応じた利用ができるよう環境の整備に努めてまいります。

【回答課：子ども施設事業課】

●未来へつなげる教育の推進

Q：小・中学校にスクールカウンセリングの先生を増やし、しっかりしたフォローをしてほしい。発達障害の子ども達の通級教室は期間が決まっているようですが、必要とする子ども達をしっかり通級教室へ通えるようにしてほしいです。(30 歳代、女性)

A：現在、スクールカウンセラーは、市独自の配置も加えて全市立学校に配置しており、小学校は月 1～2 回、中学校は週に 1 回カウンセリングを行っています。これまでもスクールカウンセラー

の拡充を図ってきましたが、今後とも適切で効果的な配置に努めていきたいと考えております。

通級指導教室については、1 年毎の申請となっております。ことばや行動面で困っている児童生徒への指導の充実に向け、取り組んでいきたいと考えております。

【回答課：学校教育課】

●未来へつなげる教育の推進

Q：小学校、中学校の校舎が古いので、子どもの教育のためにも安全に過ごせる校舎にしてください。(30 歳代、女性)

A：学校施設は、児童生徒の学習・生活の場であるとともに、災害発生時の避難場所としての役割を果たすことから、本市では、安全・安心の確保を最優先課題として取り組み、平成 26 年度末までに、全ての市立学校について耐震化を完了しました。

しかし、一方で、市立の小中学校施設は、築 30 年以上を経過した建物が全体の 66.7%を占めており、施設の老朽化対策や快適な学習環境の整備・充実が課題であると認識しています。

本市では、老朽化した校舎等の建替えを行う「改築事業」、屋上防水の改修、外壁改修、環境改善のためのトイレの改修、経年劣化に伴う設備の改修等の「長寿命化事業」、施設機能を良好に保つための「維持管理事業」といった手法により、学校施設の整備に取り組んでいます。

特に、トイレの整備については、和便器の洋式化・床のドライ化・バリアフリー化・多目的トイレの新設等の改修を積極的に実施しています。昨年実施された文部科学省の調査では、久留米市立の小中学校のトイレの洋式化率は、全国平均や福岡県平均を上回る結果となっております。

また、平成 26 年度末には、小中学校の普通教室に、空調機の設置を完了するなど、児童生徒が快適に学習できる環境整備を行っています。

今後も、安全かつ快適な教育環境の整備・充実のため、これらの事業を進めるとともに、日常的な点検や専門業者による定期的な点検を実施し、緊急的な対応が必要な場合は補修や修繕を行うなど、安全確保を最優先に施設の維持保全に努めていきますので、ご理解いただきますよう、よろしくをお願いいたします。

【回答課：学校施設課】

●未来へつなげる教育の推進

Q：西鉄久留米駅の治安問題に取り組んでほしい。中学生がタバコを吸いながら、行き交う人々に見せつけるようにしています。補導員の方をもっと増やして、安全な街にしてほしいです。
(30歳代、女性)

A：久留米市では、青少年育成課の専任少年指導員や特別少年補導員が、西鉄久留米駅はもとより、少年が集まりやすい公園、コンビニエンスストア等を重点的にパトロールして街頭指導しているほか、自主防犯団体への支援や駅周辺・繁華街への街頭防犯カメラ設置など、「犯罪の抑止」「防犯力の向上」等の防犯対策に取り組んでいます。
また、市民の皆様の協力のもと、地域においても同様にパトロールを実施していただいています。これらの活動は、学校や警察などとの情報交換や市民の方の情報提供も参考にしながら実施しているところでもあります。

久留米市としましては、西鉄久留米駅周辺はもとより、少年非行についてのパトロールの強化に努めるとともに、より一層関係機関や地域住民の方との連携を図り、少年の非行防止や防犯対策に努めてまいりますので、今後ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

【回答課：青少年育成課】

●地域医療の確保

Q：病院が多く安心ですが、大きな病院が多いため、他の地域から久留米の病院に入院等で来る方もいると思います。仕方がないことですが、その負担などで例えば、久留米市の国民健康保険料等が高くなっていませんか。(40歳代、男性)

A：他市町村から久留米市の医療機関等へ入院・入所される場合、その影響で直接、久留米市の国民健康保険料が高くなることはありません。

国民健康保険は、基本的に住民票がある市町村で加入することになっているため、他市町村の方が久留米市の医療機関等へ入院・入所をされた場合でも、その方に対する医療費の給付は住民票がある市町村が行うこととなります。

また、入院・入所の長期化等により他市町村の方が久留米市の医療機関へ住民票を移すことになっても、国民健康保険には、住所地特例という制度があり、他市町村の方が久留米市の住所地特例施設（医療機関・児童福祉施設・障害者支援施設・特別養護老人ホームなど）へ住民票を異動する場合、国民健康保険の資格は異動前市町村で継続され、医療費の給付は異動前市町村が行います。この制度は医療機関や施設が多い市町村の負担を軽減するために設けられています。

【回答課：健康保険課】

●高齢者の社会参加・参画の推進と生きがいづくり

Q：子育て世代、高齢者世代等に関係なく全ての方々が、ご近所同士、困った時には遠慮なく助け合う関係ができることを望みます。
(40歳代、女性)

A：久留米市では、「第2期地域福祉計画」を策定し、子どもから高齢者まで住民の誰もが安心して生活し、地域全体で支え合う地域づくりに取り組んでいます。

今年度からは、地域の皆さんが自ら行う支え合い活動について話し合う場づくり（支え合い推進会議）の取り組みをスタートさせました。

今後、この取り組みが久留米市全域で実施されるように働きかけ、市民の皆さまと一緒に、支え合う地域づくりの更なる推進に努めてまいります。

【回答課：地域福祉課】

●高齢者福祉・介護サービスの充実

Q：介護保険制度の改正で、要支援者が介護保険のサービスを受けられなくなった場合に久留米市の対応を早く市民や介護施設などに知らせてほしいと思います。なるべく、そのままのサービスが受けられるようにお願いします。
(40歳代、女性)

A：平成29年4月から順次、介護予防・日常生活支援総合事業の訪問型サービス、通所型サービスとして実施いたします。必要なサービスが適切に提供され、必要な方が、サービスを受けられなくなることがないように制度づくりを行います。

このような制度改正の内容を広く市民の皆様にお知らせするために、平成28年8月から事業所向け説明会を行ったり、総合事業に関するチラシ等の配布をしたりしています。また、今後は市民説明会も行っております。

【回答課：介護保険課】

●高齢者福祉・介護サービスの充実

Q：高齢化社会に直面している今、老いを先延ばしするための予防を行ってほしい。心や体が元気でいられるように、週数回の脳の体操や体の体操で、ハリのある生活を送れる指導を広められたらいいと思います。(60歳代、女性)

A：高齢化の進展に伴い要支援・要介護の大きな原因となる「転倒」や「認知症」などを元気なうちから予防することが重要となります。そのため久留米市では、概ね65歳以上の高齢者を対象として、介

護予防に資する運動や講座等の実施、地域での自主的な介護予防活動に向けた支援等を行っています。

具体的には、自宅でもできる安全な有酸素運動で転倒予防や認知症予防などに効果がある「にこにこステップ運動&スロージョギング」や、リズムに合わせた体操や童謡等の歌唱など音楽を通じて心と体の健康を図る「ドレミ♪で介護予防!!」、簡単な読み書き計算などを通じて、認知機能やコミュニケーション能力の維持・向上を図る「くるめ元気脳教室」などの介護予防教室を開催しています。

さらには、地域で活動されている高齢者団体等に対して介護予防の専門講師を派遣するなど、地域での介護予防活動に向けた支援を行うことにより、今後とも高齢者の方々が住み慣れた地域でいきいきと自立した生活を維持していくことができるような介護予防事業の充実に努めてまいります。

【回答課：長寿支援課】

●生活困窮者の自立支援

Q：生活保護を若い人達が利用している、パチンコ屋や飲み屋に行き遊んでいるという話もよく聞きます。若い人の生活保護の利用もよくわかりません。本当に必要な人に福祉の利用をお願いします。(40歳代、女性)

A：生活保護については年齢ではなく、現在の時点で活用できる資産や能力、他制度によっても最低生活の維持が困難な方に対して適用されることになっています。しかしながら、頂きましたご意見の中にあるように、ギャンブルや遊興費によって保護費を消費してしまうことは、最低限度の生活を維持し、自立を助長するという生活保護制度の趣旨からは逸れていることとなります。

生活に困窮している市民の方に対して必要な制度であり、かつ、市民の皆様にご理解をいただけるような制度であり続けるためにも、保護費の支給という金銭的な支援だけではなく、就労支援をはじめとする自立支援を行ってまいります。

【回答課：生活支援第2課】

【目標：活力あふれる中核都市久留米】

●新たな価値を生む新産業・新技術の創出・育成

Q：若者が集まるための環境整備が必要です。企業誘致により子ども達が増え、そのことで活気を取り戻せるのではないかと思います。企業誘致においては、道路、税金の更なる優遇が必要です。(40歳代、男性)

A：久留米市では、雇用の創出や産業の振興を目的に企業誘致に取り組んでいます。企業誘致を進める上では、企業立地の受け皿となる産業団地等の環境整備や、税金や初期投資等に対する優遇制度による立地企業への支援などを行うことにより、企業の立地を促進しているところです。

今後も、久留米市の活性化に繋がるよう、企業誘致に積極的に取り組んでいきます。

【回答課：企業誘致推進課】

●職業として選択できる魅力ある農業の実現

Q：久留米市に期待していることは、自然の豊かさをもっとアピールしてほしいことです。野菜や果物など地産地消を推進して、もっと暮らしやすいまちを目指してほしいです。(30歳代、女性)

A：本市は、福岡県最大の農業都市であり、多種多様な品目が生産されております。農政のマスタープランである「第2期久留米市食料・農業・農村基本計画」においても、「農業・農産物への理解促進」を基本施策の一つとして、本市の安全な農産物の生産や農業に対する市民の皆様の理解と信頼の確保に努めることとしております。

具体的には、「農業まつり」などでの生産者と消費者の交流、久留米地域産の農産物等を積極的に販売・活用していただいているお店の登録・PRを行う「地産地消推進店登録制度」の推進、地場農産物を使った料理講習会の開催などに取り組んでおります。

今後も、様々な場面を通じて、皆様へよりわかりやすい形で、本市の豊かな「食」と「農」の情報発信と理解促進に努め、市民の皆様が愛着を持って住み続けたいと思えるまちづくりを目指してまいります。

【回答課：農政課】

●多様な人材が活躍する労働環境の整備

Q：就労意欲のある高齢者を企業は積極的に採用したほうがいい。人口減少のため、高齢者の方も仕事をもち、賃金を得て元気に働ける環境があれば医療費の削減にもつながると思います。
(40歳代、女性)

A：久留米市は、少子高齢化に伴う労働力の減少に対応するため、高齢者や女性などの多様な人材が活躍できる労働環境の整備を推進しています。具体的には、高齢者に対して、就労に関する情報提供、事例の紹介を行うセミナーの開催、市役所2階のジョブプラザで就労支援を行っています。
また、就労意欲のある高齢者を企業に積極的に採用してもらうため、高齢者に就業の機会を提供する久留米市シルバー人材センターは、企業訪問を行い、就業先の開拓に取り組んでいます。
今後も高齢者が、元気に生き生きと働くことができるよう各関係機関と連携して、高齢者の就業機会の確保に努めてまいります。

【回答課：労政課】

●にぎわいと憩いを創出する場と機能の整備

Q：西鉄久留米駅周辺や一番街など、昔に比べてシャッターばかりで淋しく、商店街の活気がなくなっているので整備してほしいです。
(40歳代、女性)

A：久留米市では、商店街に賑わいを取り戻し、商店街を回遊する人を増やすことを目的に、空き店舗に出店する方へ改装費の一部を補助する出店促進事業を行っています。また、商店主が受講者へ知識や技術を伝授する少人数のゼミ「まちゼミ」や、各店が工夫を凝らした100円商品を販売する「100縁商店街」など、多くの方にお越しいただけるような魅力ある商店街づくりを商工会議所やまちづくり会社と連携して支援しています。さらに、平成28年度に開業した久留米シティプラザを活用したまちなかの賑わいづくりにも取り組んでいます。
今後も引き続き関係団体と連携し、活気のあふれる商店街づくりに取り組んでまいりますので、ぜひ皆様でまちなかにお越しくださいますようお願いいたします。

【回答課：商工政策課】

●久留米ならではの魅力ある観光の振興

Q：市内外を問わず誰もが観光を楽しめるような情報の整理や交通の利便性が求められていると思います。どの年代、性別の人でも魅力を感じられる市の観光MAPなどがあるといいと思います。新しく作るというより既存の財産を大切にしたいと思っています。(50歳代、女性)

A：ご意見のとおり、どの年代や性別の人にも市の魅力を感じていただくことができるマップは必要であると考えております。
そのため市では、観光マップとして、「久留米の旅ノート」や「久留米よかこマップ」など、観光について広く情報発信するものと「グルメ」や「花、フルーツ」等目的に応じてより詳細な情報を発信するものを作成し、市内の観光案内所や観光施設等で配布しております。
今後も観光客はもちろん市民の皆様にも、久留米市がもつ様々な魅力を年代、性別に拘わらず、よりわかりやすく発信できる観光パンフレット及びマップの作成に取り組んでまいります。

【回答課：観光・国際課】

【目標：基本計画推進に当たって】

●市民と行政の相互理解の向上

Q：広報くるめの情報ほっとラインの充実をお願いします。旧町の広報紙とまではいなくても、中心部だけでなく周辺部の情報も入れてください。(70歳以上、男性)

A：久留米市は、基幹広報媒体の「広報くるめ」や各総合支所が発行する管内広報紙、チラシ、冊子など、それぞれで補完し合いながら、市民の皆様に必要な情報が伝わるような情報発信に努めています。
各媒体の特長を生かし、より効果的で効率的な広報手段を選択したり、重複を避けたりするなどの調整をさせていただいておりますので、ご理解の程、よろしくお願いいたします。

【回答課：広報課】

●効率的で質の高い行財政運営の推進

Q：久留米市はとても良いまちだと思うし、愛着もあります。ただ、久留米シティプラザなど大きな建物には人の目がいつているが、現在使用していない場所、建物などを活用して「もったいない」をなくしてほしいです。(60 歳代、女性)

A：久留米市には、久留米シティプラザのような大規模なものから小規模倉庫のようなものまで含めて約 600 の施設があります。また、その設置目的も、多くの市民の皆様が利用される文化施設、市庁舎のような行政施設、小学校、市営住宅など、様々です。

これらの施設の多くは、高度経済成長期を中心として集中的に整備されており、今後、老朽化の進行による機能低下や施設改修のための財政負担増大など、様々な課題が予想されています。

市では、これらの課題に対応していくため、平成 28 年 1 月に「公共施設総合管理基本計画」を策定し、公共施設全体を計画的・効率的に管理していくことにしています。この計画の中で、「既存施設の用途転用、複合化・集約化・統廃合」などを進めることとしており、この方針に基づき、既存施設の有効活用についても検討を進めていきたいと考えています。

【回答課：行財政改革推進課】

●計画行政の推進

Q：長く住んでいて住み慣れていることもあり、住みやすいと思っています。高齢化社会など環境の変化に応じて柔軟に市政を行っていただき、不便なく生活できる住みやすい市であり続けてほしいと思います。(30 歳代、男性)

A：現在の日本は、人口減少・超高齢社会の進行や、グローバル化・情報化の急速な進展などによる時代潮流の大きな変化の中にあり、久留米市を取り巻く環境も大変厳しいものとなっています。

そうした変化に柔軟に対応しながら、長期的な視点で様々な施策を駆使していくことが、ご意見のような、「誰もが住みやすいまち」をつくるために重要なことであると考えています。

そのようなことから、平成 27 年度を始期とする久留米市新総合計画第 3 次基本計画においては、「超高齢社会など時代を見据えた都市の構築」、「幸せを実感できる市民生活の実現」、「住み続けたいと思える、住み続けられる地域社会の形成」を基本的な視点に据えて、ネットワーク型のコンパクトな都市づくり、支えあう共助の仕組みづくり、結婚・妊娠・出産・子育て支援の推進、教育の充実、安全・安心のまちづくり、地域産業の元気づくりなどに積極的に取り組んでいます。

今後も、住みやすいまちの実現に向けて、時代に即した取り組みをさらに進めてまいります。

【回答課：総合政策課】